

性格の病理 (二)

東京帝國大學助教授 青木誠四郎

一、性格異常と幼兒

其次に生活異常と幼兒の生活と云ふ事を申します。

性格の異常と云ふ事を今申した様に考へます場合に、斯う云ふやうな性格上の問題は、皆さんが實際に携つていらつしやる幼兒の上に、何う云ふ關係を持つて居るか云ふ事が其次の問題になると思ふのであります。

で性格と云ふのは今申しました様に情意の傾向を指すのでありまして、感情並びに意志の傾向が之が性格と名付けられるものであります。其情意の傾向の基礎となるのは、普通申して居ります本能と云ふものであります。處が此本能と云ふ情意生活の根本的な根元キネトになるものと云ふものは、我々の持つて居ります智的の働きに較べまして、非常に早く起つて來るものなのであります。K. Bridge は、子供の感情の發達を色々調べて居る人ですが、昨年一九三二年發表しました「子供の感情生活の發達」に云ふ論文があります。アメリカのナーセリースクールで調べたものなのであります。之によつて見ましても非常に此感情の發達と云ふものが早く遂げられると云ふ事が解るのであります。

之は我々が考へて居りますものよりも遅く觀察して居りますが、夫でも智的の働きに較べるにすつと早く發達する事が解るのであります。此人によりますと、人間の生れた時は感情と云ふものはあるに止まるのであるが、三ヶ月立ちますと快不快が分れて來る。快不快と云ふものが外的標準の一つを表はして來る。六ヶ月で恐れ、怒り、苦しみと云ふ様なもの

が發達する。其表情の上に分れたものを觀察する事が出来る。一年立ちますと、喜びと今の恐れ怒りと好き不好きと云ふものが出来て来る譯でありますから、一年立ちますと其喜びの内容、普通の喜びと子供の得意になつて居る喜びとを、明瞭に區別する事が出来ること云ふ事を申して居るのであります。之は感情發達を示したものであります。子供の持つて居ること云ふよりは人間の持つて居ります本能的生活の中で、著明なものの發生と云ふ事を見て見ますこと云ふと、何れも幼児の中に非常に早く其發達を示して居るものであるのであります。

人間の持つて居ります主要な本能と申しますのは、先づ榮養の本能、所有の本能、好奇心、模倣の本能、社會的の本能、さう云ふものをあける事が出来るのであります。さう云ふものゝ中で大體のものは、幼兒期に其明らかで發達を示すのであります。即ち恐れの本能は三つ位の子供で、既に著しく表はれる事が明らかでありまして、好奇心と云つて居ります様なものも我々の觀察をしまして、先づ八ヶ月にして其萌芽を表はし、三歳位で實驗的な好奇心が發達して来るのを見るのであります。模倣の本能の様なものも四ヶ月位で發達して来る。一歳半位になつて参りますと非常な勢ひで人の眞似をする本能が表はれて来る。社會的の本能は比較的遅いのであります。之でも大體二ヶ月位になること、が人を見て笑ふ、こと云ふ傾向が表はれて来る。四五歳の年齢になれば、人を求めて遊ぶこと云ふ社會的傾向を示す様になつて来るのであります。本能の中で我々が後年に於て發生すること考へられますのは、セックスの本能で、之は青年期になつて現はれて来るのであります。其本能を除きましたならば大體に於て我々が今日現在持つて居ります様な本能の生活の根元は、凡て幼兒期に其發達が著明なのを見るのであります。さう云ふ様に感情其ものを考へて見ること、兎に角非常に早く現はれて来ること云ふ事が云へるのであります。

處で智的のものこと云ふ事になりますこと、餘程遅れるのでありまして、普通我々が判斷をして居る場合に最も必要であり又重要な關係をもつて居ること考へられるのは關係判斷と云つて居るものであります。

之はものごとの關係を考へて判断をする云ふ事であります。處が子供が其關係云ふものが解るのは大體六歳云はれて居ります。六歳になつて始めて、幼稚な簡單な關係判断云ふものが出来る様になる云はれて居るのであります。之が非常に明らかな形をりますのは夫よりすつち後考へて差支へない云ふ事でありませう。之はフランスのピヤゼー云ふ學者が調べて居るのであります(波多野完治氏兒童心理學參照)。さう云ふ事に云はれて居ります。

従つて、智的の發達の基礎云ふものは幼児期には殆ど現はれる事の出来ないものでありまして、幼児の智的生活云ふものは、所謂智的に物を考へる云ふ様な生活ではなくして物を試みる云ふ生活であります。試みてやる云ふやり方であります。試みる云ふ事は何であるか云へば、其子供の好奇心から来るものであります。詰り幼児期の子供の智的生活云ふものは、寧ろ純粹の頭の働き云ふものでなくして、本當の本能云ふものに喰付いて現はれて来る。試みによつてものを考へる。さう云ふ生活が幼児の時代には現はれてゐる云斯う考へてよい譯であります。其處で、知識を我が付ける云ふ事を考へるならば、之は小學校に這入つて、斯う云ふ物を考へる云ふ事をやるのであつて、夫よりも小さい子供では物を考へる事が出来ない許りでなく、もつち大きい子供にならなければ我々は知識をつける云ふ事が出来ないし、知識を養ふ云ふ事は其時代に始めても少しも遅くはない譯であります。

處が此本能的の生活或は感情の生活、情意の生活は、幼児の時代に非常に旺盛な發達でありますから、此時代の發育が間違つて来る云々でも取返しがつかぬ云ふ事にならざるを得ないのであります。

此本能的の生活、情緒的生活云ふものは、第一に先づ刺戟の有無によつて本能が現はれたり、現はれなかつたりする性質を持つて居ります。最も著明なもので云ふならば、幼兒に對する愛情云ふものは、生れて一年位母親と一緒に居る事によつて養はれる云、今の處、斯うなつて居ります。其時期に母親が居らないで、父親でもさうであります。其時期に母親が居なかつたり或は里子にやられた云ふ事になります云、さう云ふ本能は萎縮してしまふ。之は私のお母さんでございま

す云つても決してお母さんとは考へられるが感じられない。親の方でもさうで自分の子だから可愛がらなければならぬ云ふ道徳は知つて居るけれども自然の愛がない。かく刺戟があるかないか、感情の非常に發達する時代にあつて刺戟があるかないか云ふ事によつて、或感情は發達し、發達しない云ふ事になるを考へて差支へない。

それからもう一つは、刺戟が現れて其子供の本能性が現れました其結果が非常に愉快であれば、さう云ふ様な傾向、愉快を繰返すならば夫が一つの傾向を形づくる様になる。處が不快でありますれば夫が止められますから傾向とはならない。斯う云ふ傾向があるのです。詰り或本能的生活が子供の生活の中に現はれて来る、其現はれた結果が、子供に對して満足させる様な、愉快である云又夫を繰返す、愉快であるから又繰返してやる。詰り夫が一つの傾向になる譯であります。處が夫が不愉快であります、之は成可くやるまいとする。やつても躊躇する。従つて習慣性は比較的取除かれる様になつて来る譯であります。

さう云ふ様な關係でありますからして、此幼児期に現はれて來た本能生活云ふものが、快を以て報いられるならば、其方向に子供の本能はずん／＼延びて行く性質を持つて居るし、不愉快の結果を齎らすならば、先づ大體に於て止められる云ふのが普通であります。例へば子供が癩癩を起す。癩癩を起す云ふ云ふお母さんが參つて了つて子供の思ふ通りにしてやる。之は快である事は云ふ迄もありません。不愉快だから癩癩を起して怒つても妙な結果が來る云ふ事になる。旨い結果を誘ふ爲に怒鳴る、喚き立てる。威丈け高になつて叫べば自分の云ふ事が聞かれる云ふ事になれば、之は先づ威張らなければ云ふ事が通らないものだ云ふ事を感じるでせう。子供は考へがあつて癩癩を起すのではなく、段々さう云ふ事をやつて居る中に自然に作られるのです。今の様なものはさう云ふ理窟で或傾向を與へられる様になるのであります。

それからもう一つは刺戟の種類によつて違ふ云ふ事が考へられます。

例へば子供は、社會的本能をもつて居りますから、人より優れよう云ふ、誇を持ち度い云ふ氣持があります。其誇

を、家庭の狀況、幼稚園の狀況、友達か先生の態度なきが、若し其子供が物質丈で優れる云ふ様に刺戟されるに、唯物の方向に欲望が傾いて行く。物を刺戟しないで精神的のもので刺戟する。一生懸命仕事をして行く。夫が本當に偉い云ふに、段々精神的方向に自分の誇を向ける様になるのであります。精神的になるか物質的になるか云ふ非常に大きな境になるのであつて、そのために或種類の本能が或方向に向つて伸びてゆくやうになる。さう云ふ性質云ふものを本能は持つて居る譯でありますから、此時代に周囲の者の刺戟の仕方、周囲の者の夫に對する態度がそれを何う云ふ風に取扱つて行くか云ふ事によつて子供の性格が決つて来る云云つてもよいであります。でありますからして、幼児期の狀態によつて大體子供の一つの傾向が決つて来るものであると考へて差支へない譯であります。

近來此子供の研究が進みまして、幼児時代云ふ事が大勢の人に認められ、ワッソンが子供の性格云ふものは、二歳迄で大體定まるものであると申したのでありますが、夫も強ち誇張したもの云はれないかもしれませぬ。日本等でも「三ツ子の魂百まで」云つて性格云ふものは三つ位で定まるもの云ふ著眼を我々は祖先から與へられて居た云つてよいと思ふ。かくて幼児期の情意の生活は其時代の周囲の事情の如何によつて色々の方向をもつて發達する可能性がある云ふ事、幼児期の重要性が與へられて来るものだと思ひます。従つて幼児期の發育に就ては、幼児教育を取扱ふ期間に於て非常に鋭い觀察の眼を向けて行く必要があると思ふのであります。さうして夫を見付け出したならば、其原因を我々が考へて、そして家庭に協力して其性格の異常性を解決する丈の努力を拂ふべきものであると考へるのであります。斯う云ふ場合にわれわれは、ミかく子供の異常性格を見ます、子供自身の恰も責任であるかの如くに考へる人があつて、かう云ふことに道德的責任があるものではない。云ひ換へれば異常性格云ふのは罰する事によつて直せるものではありません。従つて我々は出来る丈病的に考へる。何か原因があつて表はれて来るものである。其原因を出来る丈早く發見して其原因に従つて此矯正云ふ事をして行く様な態度を持たなければならぬと考へるのであります。

其處で原因論を云ひませうか、病理を云ふものが大切な問題になつて来る譯だと思ふのであります。

元來は此所謂病理を云ふものは、個々の色々の性格異常を云ふものを取扱ひまして、其結論として此處に病理の歸納的な論が行はる可き筈であります。お話する時間がありませぬから、我々が頭に於て子供の異常性格を云ふものを考へて行く場合に役に立つだらうと考へられます様な一般の原因論をお話してみようかと思ひます。

二、異常性の發生

次に異常性の發生を云ふ事を一通り述べて見たいと思ひます。

今お話しました様な風にして、情意の方面の生活は幼兒期に於て著しい發達を遂げる爲に、其時期の生活を取扱ふ事が非常に大事なことになつて来るのであります。

異常性格は、先程も申しました様な非常に小さいものでは、爪を噛むとか指を嘗めるとか、指を口に當てゝ居るとか云ふもの、高い程度のもは浮浪性とか盜癖を云ふ様なもの、さう云ふものがある譯であります。併しさう云ふ異常性を云ふものは唯現はれて来るものではありません。其處に何等かの原因があるを云ふ事は云ふ迄もない事なのであります。

で其原因の中で、子供其者が持つて居ります原因があります。子供の中に其原因が既に潜んで居るものを、此處で内因を云ふ名前を付けておき度いと思ひます。併し内因を云ふもの丈で子供の異常性が現はれて来るのではなくして、矢張其處に外因を云ふものがあるのであります。子供の周圍の色々な影響があつて、異常性が現はれて来るを考へなくてはならないのであります。

先づ其内因の問題であります。内因として子供が生れ付きに持つて居るを考へられる異常性の原因が、第一に擧げられるのは矢張智能であります。もう一つ情意的な素因を、身體的な原因をあげる事ができるのであります。智能の方面の

事を先づ考へて見ますと、異常性をもつて居ります子供の中には、智能の低い爲に出て来ることを考へられる異常性があります。もう一つ、智能の低い爲でなく、智能が高過ぎた爲に現はれて来るものがあります。智能と云ふものは大體遺傳によつて定まつてゐるものでありますから、之を内因と考へる事が正當であることを考へます。

先づ一般的に申しますと、シカゴで斯う云ふ事を約五千人取扱つて統計的に處理したものを、アッケルソンと云ふ人が發表して居りますが、此人の研究によりますと、一般にかやうな問題をもつて居ります子供は、智能が低いと云ふ事になつて居ります。即ち此アッケルソンと云ふ人の調べました事は、約五千の子供なのであります。其子供の生活年齢の平均は男は十一年六ヶ月女は十一年八ヶ月であります。處が其智能の發育は兩方とも九歳なのであります。生活年齢は十一歳であり乍ら、頭は九歳しか發達して居ない。身體は十一歳何ヶ月になり乍ら、頭は夫丈發達しない。さう云ふ詰り發達の未だ足りない様な子供が問題の子供に多い。従つて其智能指數、智能の生活年齢に對する割合を調べて見ますと、七九・三、七八・四、と云ふ事になつて居ります。詰り我々が今取扱ふやうな變つた子供と云ふもの、異常性を持つて居る子供に於ては、智能の非常に低い、劣等智能と我々の云つて居ります様な子供が比較的に多い様になつて居ります。一般の通例であります。性格異常と云ふものは低能ではないが普通の頭をもつて居らない一寸足りない、さう云ふものが非常に多いと云ふ事を云つて居るのであります。此結果も又さうであります。私の取扱つた例等を見ますと、智能の普通と云ふのはなくて、非常に高いと云ふものと低いもの、此二つの種類が最も多いのであります。是等も平均して見るに矢張り低い方の傾きを爲す。唯此小さい子供には、割合に智能の高い事が多いので、大きい子供は智能の低い方が多いと云ふのが一般的であります。さう云ふ事は要するに小さい子供は直る可能性をもつて居る、直りがよいけれども、低いものは後になつても中々直り難いと云ふ事を示して居ると云つてよいでせう。斯う云ふ事になるのであります。併し必ずしも凡てが低いものではありません。低いものによつて又高いものによつて此問題となるべき異常性が違ふのであります。

一般に低い頭をもつて居ります子供は持ち易い要素云ふものは、先づ第一に擧げられますのは小さい子供を許り遊んで居る、同年の子供を遊ばない云ふ傾向であります。小さい子供をいぢめる云ふのは智能の低い子供に多い、のろまな子に多い。さう云ふ事になつて居ります。それから非常に暗示を受け易い子供が又其中に多いのであります。詰り低いものには低いもの相當の異常性云ふものがあるものだから考へてよい譯であります。

人が嫌ふに餘計さう云ふ事をやるか、少し痛い事でもするに大けさに其處らを吹聴して廻る、さう云ふ變つた子供がある。さう云ふのは割合に智能の高い子に多い云ふ結果を得て居ります。それから嘘を云ふのでも、非常に空想的な嘘を云ふ子供があります。空想的なありもしない事を非常に大けさに竝べ立てゝ色んな嘘をつく子供があります。之も智能の割合に高い子に多いのであります。(それから非常に周圍の人の注意を引く云ふも、同じ様な行爲を繰返す子供があります。人の注意を引く様な事を繰返すのは、幾らでも大人にもありますが、斯う云ふのは割合に智能の高い子供に多い云はれて居ります。さう云ふ様に兎に角これ等は寧ろ智能の高い爲に起きる異常性でありまして、低い爲にはまあ起らないかつたらうに考へても差支へはありませぬ。

其處で我々はさう云ふ色々な異常性をみますと、子供の頭が非常に低くはないか、高過ぎるんじゃないかと言ふ事を先づ考へるに云ふ事が一つのポイントとして與へられると思ふのであります。だから異常性云ふものが出たら、其子供は何う云ふ智能を持つて居るか云ふ事を、之を検査する事が先づ第一にされなくちやならない云へると思ひます。これは、智能検査をして見れば明瞭になるのであります。さうでなくても日常の仕事に現はれて来る判断記憶云ふもの、其判断記憶が普通の子供と同じ様であれば、之はまあ普通の智能だと思つて差支へない。處が其判断や記憶が、多くの子供に較べものにならない様に遅れて居る。或は普通の子供が直ぐに答へが出来る事が、答へられない云ふのであれば、之は其子供の智能が低いと考へなければならぬ譯であります。従つて子供の生活して行く、此子は一體どの位頭が進んで居るかの大體見當がつくと思ふのであります。事實私共がお母さん方が頭の低い子供を連れて來られ、此子供は三つ位

の子さしか私には思はれない、さうも二年位智慧が遅れて居る様に思ふのだが、ミ仰有る事がありますが、さう云ふ子供を實際調べてみますと、略々當つて居るのであります。さうして見ますと、我々は子供を細かく見て居れば、非常に頭が低いとか、或は高いとか云ふ様な事は、大體見當が付くと思ひますから、頭の高い爲に病的の性格を持つ様になつて行くのではないか、低い爲にさうなつたのではないかミ斯う考へて見る事が出来ると思ふのであります。これは素因ミ云ふものゝ先づ第一のものであります。

其次に情意的の素因ミ云ふべきものがありますが、今のは頭の發達ミ云ふ事になります。で性格異常の一種は、先天的の情意的の傾向から考へなければ到底説明が付かないものがあると思ふのであります。私は長い事不良少年を取扱つて居るのであります。不良少年を取扱つて見ますと、さうも其處に生れて後の色々の教育の状態で出て来たミは考へられない様なものがあるのであります。例へば小さい時から非常に慾が深い、斯う云ふものが欲しいミ云ふミ、何うしても夫を買つて貰はなければ承知出来ないミ云ふ様な子供がありますが、夫は環境の状態も勿論關係はありますが、そこに情意的の素因があるミ考へなくてはならない様に思はれるものがあるのであります。さう云ふ様な考へ方で、オイゲンカーンミ云ふ人の病的人格ミ云ふ書物を見ますと、非常に我々が病的なものを考へる上に當つて居るものを見る事が出来るのであります。夫はカーンの病的人格的素因の一つに衝動の強さ、ミ云ふ事を書いてあります。我々の色んな行爲は、大體衝動によつて左右される性質が強いのであります。これが生れ乍らにして非常に強いのである。非常に弱いものもある。非常に強く衝動の起る形ミ云ふものが病的性格になる形であり、非常に弱い衝動の形ミ云ふものも亦、病的性格になるミ云ふ事を云つて居ります。之が大變私には當つて居る様に思ふ。子供は生れた許りから非常に泣く子供、それから落着かないでしよつちう動いて居る子供、何う見ても慾の深い子供等があります。兄弟の中でも、一人の子供が慾が深いのに外の子供はさうでないミ云ふのがありますが、夫が夫に當るのであります。さう云ふ子供は成長するにつれて興奮する様な性質を持ち、感情が不安定、意志が薄弱、爲に事に應じて興奮する性格を持ち易いのであります。又同時に一種の異常性を持つ事

も少くないのであります。さう云ふ情意の素因を持つて居りますものは、餘程取扱ひが旨く行きませぬと、普通の子供として大きくなり得ないのであります。事實夫が後に申します様に、色々の悪い取扱ひが起きて参りますと當然、形の違つたものになつて來なければならぬと云ふ事になるのであります。

併し乍ら衝動が強いと云ふ丈が、今の様な子供の原因ではなくて、弱過ぎると云ふ事も異常性の原因になる場合があるのであります。子供の中には生れて非常におこなしい、いたづらをしない子供がある。即ち、非常に活動性がなくて、死んで居る様な子供が有ませう。かう云ふ子供が怠惰と云ふ習癖が表はれて、學校へ行つてもばかんと居て何にもしない。やりなさいと云ふと一寸手を下すが後は何にもしない。さう云ふ子供になり易いのでせう。それから又、社交性がない子供が有ります。學校へ來ても少しも他の子と遊ばない、後の方にじつとして居る。かう云ふ子供は後天的の取扱ひにもよります。即ち家庭に於て外の子供と、少も接しさせない爲に、外の子供の活動して居る状態を見ますと、怖がる様になる。教室の隅で小さくなつて居る。門の所へ來ると歸つて了ふ。お祖母さんが見て居ないと歸つて了ふと云ふ様になるのであります。夫等の因キレになるのは、衝動が弱いと云ふ事が一因であること云ふべきでせう。元來子供は社交性を持つて居る可き筈であります。持つて居る可き社交性が非常に弱い。弱いものだからさう云ふ境遇に居ると、少しも發達しないで大きくなつて了ふ。さう云ふ事も矢張衝動の弱いと云ふ内因、情意の素因と云ふものを考へなくては説明が付かないと思ふのであります。さう云ふ様な事でありませうから、此處に第一我々は子供の性格の異常性を考へる一つのポイントを見付け出す事が出来るのであります。

情意の素因としてもう一つ私共が考へておき度いのは、クレッチメルの云つて居ります身體の性質から生れる性格の差であります。クレッチメルは、人間の體質を分けて噪鬱型と乖離型と闘士型とを分ける、此噪鬱型と云ふのは、肥つて居て身體の恰好が丸つこいと云ひませうか、さう云ふ様な人を云ふのです。この身體の肥つて居る人は社交的な快活な人が多い。乖離型の人は非社交的で、沈鬱な性質をもつてゐると、クレッチメルが云つて居る。病的な性格は、斯う云ふ點か

ら、多少解決が出来るものがありはしないかと思ふ。

次に、これは、以上のやうに根本的ではないが、内因として身體的原因がある云ふ事は申す迄もない事であります。病身の子供が陰鬱な傾向を持ち易い、それからさうでない子供は、割合に晴れやかな性質を持ち易い云ふ事は、我常識で知つて居ります。兎に角身體的なものを考へる云ふ事は一つ必要な事であります。之も内的の素因で子供自身がつて居る性質であります。

併し乍ら我々申します所謂異常性格は、内因云ふもの丈から生れるものではない。内因云ふもの丈から生れるものであるならば、生れ付き今の様な體質をもつて居たら、又衝動が強過ぎる云か弱過ぎる云か云ふ情意の傾向を持つて居たら、之は何うしても仕方がないのであります。如何んにもする事が出来ぬものであります。

さう云ふ事であつたら、我々教育云ふ事は出来ないものだ云考へなくてはならない譯であります。處が實際の状態を見ますと、例へばさう云ふ素質を持つて居りましても、決してさうなることは限らぬ。さうなることも云へないのであります。詰り内因云ふものはあるけれども、其外因如何云ふ事によつて、色んな性格の異常が發達した形をこつて其處に出て來る云ふ事になるだらうと思ひます。

だからして、さう云ふ異常性格は、人間の持つて居ります素質と、それから外のものとの一つの共同的の働きとして現はれて來るものである。斯う考へてよい譯であります。

かやうな外因として持つて居る様なもので、まづあげられるのは、周圍に居ります人間であります。即ち子供に働きかける人間的の周圍であります。いまこれを分けまして、第一は無意識的な周圍、第二は意識的な周圍、斯う二つに分ける事が出來ます。で無意識的な周圍の影響は、人間の元來持つて居ります模倣云ふ本能が根本になるものであります。この模倣には第一に呼應云ふ様なものがあります。例へば周圍の者が非常に興奮し易い感情を持つて居りますと、子供も又

興奮し易い感情を持ち易い、何さなく同じやうな感情に同化される云ふのがそれでありませう。それからもう一つは、普通の模倣であります。之はよく申します嘘の眞似云ふ事があります。親が嘘を、例へば家に居るのにお母さんが、良人は一寸他所へ出ました云ふのを聞くに、嘘を云ふのは面白い云ふのでお母さんの眞似をしてみよう云ふので眞似をする。さう云ふ眞似は随分澤山起りませう。嘘を云ふ事の原因は、眞似から來ることにその一つがある云ふ事は一般に云はれて居る事ではありますが、いはゞ模倣から生れて來る一種の異常傾向であります。今の様な、非常に感情が興奮し易い、慾が深い、非常に感激性だ、云ふ様なものも模倣から現はれて來る場合が少くないのであります。さう云ふ様にして之を一般的に云ひますと、子供云ふものは、無意識的に周圍の人間の調子と自分の調子と合はせる。周圍の者が嘘を云へば自分も嘘を云ふ事が周圍の空氣に合する所以である。周圍の者が感情が強ければ子供の感情も強くなる。だからして周圍の者が調子を合はせる云ふ様なさう云ふ傾向が根本になつて、今の様な模倣によつて習癖の現はれて來る場合があります。

それからもう一つは、意識の場合であります。周圍の人間は自分の知らない中に影響を及ぼして居る許りでなく、意識して影響を及ぼす場合がある。即ち自分が夫を批評する云ふ立場に立つ場合がありませう。子供は、元來本能的な生活をして居る譯であります。夫に對して、成人は自分の意識から種々なる批評を加へる。これが子供に快を齎らすに、此方面の行爲を促進する云ふ傾向を持つて來る。ところが、この批評によつて子供に不愉快な事が起きますと、夫を止める云ふ傾向が出て來て、ある行爲を萎縮して行く、其處に一つの性格の出來て來る理由がある譯でありませう。たゞ併し批判が餘り嚴重でありますと、これに對する反撥が強くなる場合のあることを考へておかななくてはなりません。嚴重な嫌に對する反抗心なきがその一例であります。小さい子供でも親の云ふ事を聞かないで困る。喧しく云ふ一寸は聞かなく又云ふ事を聞かない。斯う云ふ様な場合それです。

もう一つ外因として主要なものは、人間でなく一般の周圍の刺戟の状態であります。周圍の刺戟の多い様な都會生活の

様なものでは、しよつちゆう夫に應じなければならぬ。そのために、刺戟に應じ易い性格ができ、よくものを考へない、直ぐに仕事を止める云ふ様な傾向がつき易い。詰り色んなものゝ刺戟、人間の刺戟、さう云ふものが加はります、其爲に異常性云ふものが現はれる場合がある。もう一つ付加へておき度いのは、刺戟が全然ない爲に異常性を持つ場合がある事です。非社交的兒童なごが生れて来るのは、人間的な刺戟を與へない爲に本能が發達しないで終るためであります。

以上の如くして大體に於て其内因としての智能と情意的素因、體質的素因、外因としての意識的の周圍及び、無意識的の周圍、此四つなり五つの因由を考へて見れば、我々は大體に於ていかなる理由によつて、その異常性格が現はれて来たものであるか云ふことが大體に於て理解せられると思ふのであります。例へば非社交的兒童云ふ者があります。先刻申しました様に、幼稚園に來て辯舌らぬで黙つて居る、遠く庭の隅にちよこんとして居る。決して外の子供と遊ばない。かやうな子供には、往々情意的素因があるものであります。時には智能の低い場合もあります。即ち情意の素因である衝動性の非常に弱い子供にかやうな事が起り易い。で、さう云ふ風になる素質を持つて居る子供は、できるだけ周圍の者が刺戟を與へて社交性を助長する様、幼稚園なごに入れて段々刺戟して發達させる様にしなくてはならない。ところがさう云ふ子供を、家の中で育て、周圍に接しさせないでおく、その爲に非社交的兒童云ふものが出來て來る譯であります。斯う云ふ子供は、何さかして社會的傾向を刺戟する云ふ事が必要であります。かう云ふところに幼稚園の使命がある云つてよいでせう。

以上のやうにして子供の性格に現れて來る癖、異常性云ふものは、おのゝその由つて來るころがあるのであります。その場合、かゝる性格の矯正乃至は、かう云ふ傾向を作らないやうにする事は、幼兒をあづかる幼稚園なごの特に注意しなくてはならないものをもつてゐると思ひます。尙個々の習癖について御話するに具體的に理解して頂けるものがあると思ひますが、今日は極めてざつと一般のアウトラインを申上げて見たのであります。(終り)